

# 全く変わっていない未配置問題

## 人がいなければ「仕方がない」でいいのか?

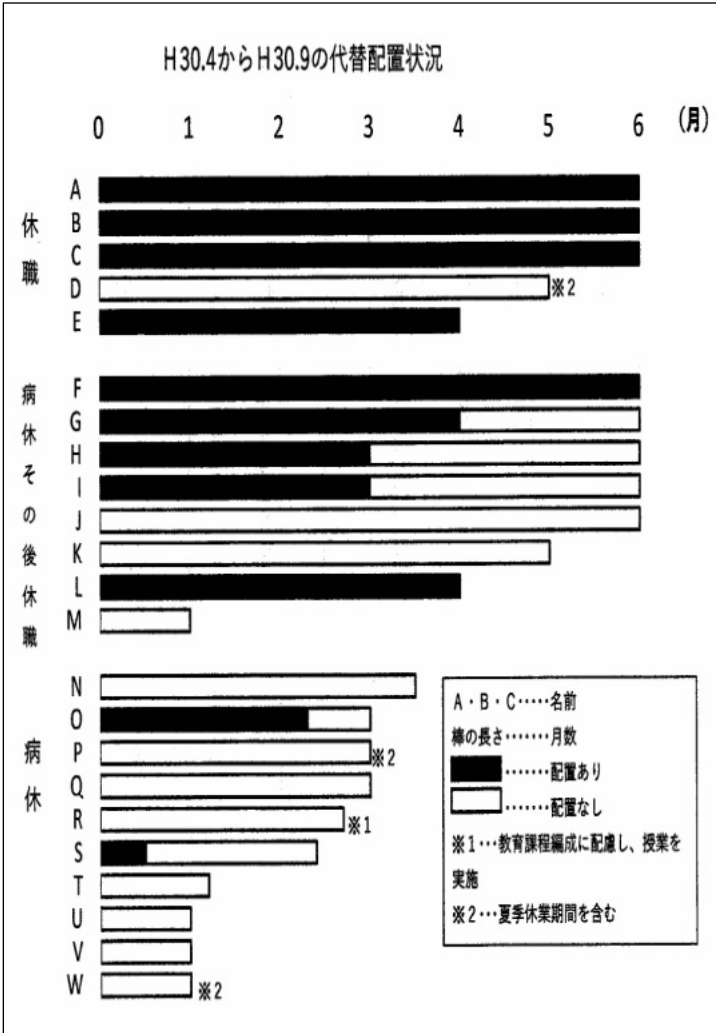
# 越教組ニュース

越谷市教職員組合  
情宣部  
18.11.13(火)  
Tel 988-3281  
Fax 988-3283

今回は、タイムカードによる勤務時間の比較を取りあげました。数字の上では、市全体ではマイナス16時間になっていて報告しました。今回は、1学期に「あつちでもつちでも未配置」として取り上げた病休・休職の代員の配置問題を昨年度と比較する形で取り上げてみました。

## 10月1日現在5名が未配置

左の表は、越谷市の代員の状況をまとめたものです。この4月から9月までの6カ月で代員が必要とされた病休・休職の方は23人。そのうちフルで配置されたのは6件。後の18件は期日通りに配置されていません。5件は部分配置。12件は結局配置なしで終わっています。3件は3カ月以上、5カ月、6カ月配置なしという学校も。  
10月1日現在では、代員が必要とされる病休・休職は8名。このうち、配置できているのは3件のみ。5件は、未配置。大袋北小は、少人数指導に入るべき人が4月からずっと配置されていません。他の学校で担任が欠員となってしまう場合、そちらが優先されてしまったため、いつまでもたっても配置とならないのです。教員の負担はいう



# 政治が変われば教育も変わる

もでもありません。弥栄小では、2学期から教務主任が担任となり、教務主任の仕事の大部分は教頭が兼務。桜井小学校では、2学期から教務主任が担任を兼務しています。いつまでもこんな状況を続けるつもりなのでしょいか。決められている代員の配置ができないような行政の無責任ぶりはどこで生まれてしまったのでしょうか。なぜ現状を放置しておくのでしょうか。

## 教育を大事にする政治へ

ある政党の教育政策です。  
 小中学校の教員定数を10年間で9万人増やすことなどを柱とした教職員を増やし、異質な長時間労働の是正を「一学校をよりよい教育の場にする」を發表しました。  
 この政策では、1日12時間近くになる長時間労働の背景に  
 (1) 国が教員を増やさず授業数を増やした  
 (2) 格差と貧困の広がりで学校の抱える課題が増えた上、全国学力テストや教員免許更新制、人事評価などの「学校改革」が拍車をかけた  
 (3) 公立学校の教員が法律で例外的に「残業代ゼロ」とされてきた  
 「という「三つの根本問題」があると指摘。問題解決へ4つの提案をしています。  
 第一に、現在1日5〜6コマとなっている受け持ち授業数を4コマを目安に減らし、小学校で週20コマ、中学校で18コマを上限とします。そのために小中学校の教員定数を10年間で9万人増やします。教員不足を招いている免許更新制は廃止します。  
 第二に、学校の業務削減を国と自治体、学校現場の双方から推進すること。  
 第三は、「残業代ゼロ」の例外扱いをやめ、残業代をきちんと支払い、残業時間を規制するなど、教職員の働くルールを確立すること。  
 第四は、公立、私立学校での非正規教職員の正規化と待遇改善を進めることです。  
 政策の実現のためには野党共闘が必要になります。また、各地の教育委員会、教職員組合、PTA団体などの共同も必要です。  
 もちろん、この4つの提案で教育問題が全て解決するわけはありませんが、問題を取り巻く環境を大きく改善できることは疑いがありません。お金がないわけではないではありません。教職員定数などは、GDP比を0.1ポイント上げるだけなのです。それを大事だと思ひ、実現する政治になればいいのです。

